

学会員 (教員) 研究動向 [2020.4 ~ 2021.3]

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
青山 芳文	著書(共著)	『もっとやさしいコグトレ』(宮口幸治編著, 三輪書店)	2020.8
	著書(共編者 (共編著者))	『小・中学校の教師のための特別支援教育入門』(小谷裕実・藤本文朗・青山芳文・小畑耕作・近藤真理子 (共著者を含め, 分担執筆者は約20名), ミネルヴァ書房)	2020.4
秋葉 武	論文(単著)	「NPO コンサルティング―「組織診断」の定着プロセスを事例として―」(立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』56巻4号)105-114頁	2021.3
	研究発表等 (単独)	「NPO の組織基盤強化」(日本経営診断学会第53回全国大会)	2020.9
	研究発表等 (単独)	「2020日韓市民100人未来対話 (主催韓国国際交流財団)」(2020日韓市民100人未来対話)	2020.10
	研究発表等 (共同)	「NPO コンサルティングの生成と展開」(日本 NPO 学会第22回全国大会)	2020.11
	研究発表等 (共同)	「大規模災害時における日本 NPO 学会の役割」(日本 NPO 学会第22回全国大会)	2020.11
	その他 (単独講演)	「経営の基礎知識と資金調達」(大津市女性起業家の経営スクール)	2021.2
有賀 郁敏	論文(単著)	「強制収容所の『スポーツ』―ナチズム・近代・ベルリンオリンピック―」(『大原社会問題研究所雑誌』No.742, 2020年8月号)3-24頁	2020.8
	その他(単著)	「政策言語に潜む強権性と言葉の力―新自由主義ディスピアからの転換―」(『卒業論文集―余暇社会の歴史と現代―』産業社会学部有賀郁敏ゼミ)1-12頁	2021.3
	その他(単著)	エッセイ「東京オリンピック小考―『人類が新型コロナに打ち勝った証』?―」(『さんしゃ Zapping』Vol.35, No2)11-14頁	2021.3
飯田 豊	著書(分担執筆)	『万博学―万国博覧会という、世界を把握する方法』(佐野真由子編, 思文閣出版)297-310頁	2020.8
	著書(分担執筆)	『はじめてのメディア研究 [第2版] ―「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで (浪田陽子・福岡良明編, 世界思想社)263-269頁	2021.1
	著書(分担執筆)	『クリティカル・ワード メディア論―理論と歴史から〈いま〉が学べる』(門林岳史・増田展大編, フィルムアート社)256-262頁	2021.2
	著書(分担執筆)	『江戸川乱歩大事典』(落合教幸・阪本博志・藤井淑禎・渡辺憲司編, 勉誠出版)619-622頁	2021.3
	論文(単著)	「「テレビ離れ」のメディア論」(『民放』2020年5月号)12-14頁	2020.5
	研究発表等 (単独)	「メディア・イベントの来歴と未来―大阪万博から50年」(日本未来学会・月次研究会)	2020.5
	研究発表等 (単独)	「大阪万博における企業パビリオンのブループリント」(飯田豊, 『万博学』刊行記念シンポジウム)	2020.12
	研究発表等 (単独)	「コミュニティメディアの考古学―初期ビデオアート、CATV、災害の記録」(飯田豊, シンポジウム「東日本大震災。百年経ったら―記憶・継承・忘却」)	2021.3

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
飯田 豊	研究発表等 (共同)	「情報過多社会における機械的視き」(飯田豊・毛原大樹・瀧健太郎, 日本映像学会第23回ビデオアート研究会)	2020. 8
	研究発表等 (共同)	「マスメディアにおける考現学／路上観察の系譜」(佐藤守弘・飯田豊, 現代風俗研究会・東京の会 第22期 新風俗学教室 第1回)	2020.11
	その他(単著)	「『テラハ』問題だけではない、SNS とテレビの共振が生む悪循環」(『産経デジタル iRONNA』2020年 6 月)227-241頁	2020. 6
	その他(単著)	「コロナ禍のテレビの立ち位置／送りに必要なメディアリテラシー／放送局の教育活動 継続を」(『民間放送』2020年 8 月 5 日号)20-25頁	2020. 8
	その他(単著)	「広報メディア温故知新①「あつまれ どうぶつの森」の巧みな企業利用」(月刊『広報会議』2020年11月号, 宣伝会議)143頁	2020.10
	その他(単著)	「広報メディア温故知新② 社員だけが読者ではない、note の「オープン社内報」」(月刊『広報会議』2020年12月号, 宣伝会議)143頁	2020.11
	その他(単著)	「広報メディア温故知新③ 大型レジャーお預けのコロナ下、存在価値を高める企業博物館」(月刊『広報会議』2021年 1 月号, 宣伝会議)143頁	2020.12
	その他(単著)	「広報メディア温故知新④ 災禍の情報の混乱が、新たな広報手段の発見に」(月刊『広報会議』2021年 3 月号, 宣伝会議)143頁	2021. 1
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑤ マクルーハンがもし TikTok と YouTube を目にしたら?」(月刊『広報会議』2021年 2 月号, 宣伝会議)	2021. 2
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑥ 音声 SNS 「Clubhouse」、広報メディアとしての可能性の追求」(月刊『広報会議』2021年 4 月号, 宣伝会議)143頁	2021. 3
	その他(単著)	「HIVE で掘り下げる「メディア論の地層」」(NTT InterCommunication Center)	2021. 3
	その他(共著)	『ビデオとアーカイブー令和 2 年度メディア芸術アーカイブ推進支援事業「中嶋興 /VIC を基軸としたビデオアート関連資料のデジタル化・レコード化」報告書」(中嶋興・手塚一郎・中川陽介・飯田豊・久保仁志, 慶應義塾大学アート・センター)	2021. 3
	その他 (同会・パネリスト等)	「モノから考える戦前戦後のローカル放送史ーラジオ塔、テレビ塔、送信所」(太田美奈子・樋口喜昭・丸山友美・加藤裕治・武田俊輔・飯田豊, 日本マス・コミュニケーション学会 第37期第 8 回研究会)	2020.12
石倉 康次	論文(単著)	「膨大な貧困層の広がり」と「全世代型社会保障」の問題性」(全国保険医団体連合会『月刊保団連』No.1324)18-23頁	2020. 5
	論文(単著)	「社会保障再構築の連帯共同を～なぜ国は今「全世代型社会保障」を推しすすめるのか～」(『じんけん権利の再はっけん～95年勧告から25年～』福祉のひろば社) 8-26頁	2020. 5
	論文(単著)	「社会福祉連携推進法人創設のねらい」(『国民医療』)35-46頁	2020. 7
	論文(単著)	「社会保障改革と介護保険の20年」(『人権と部落問題』部落問題研究所) 6-14頁	2020.10
	論文(単著)	「政府が進める『地域共生社会』の本質と対抗軸」(『おおさかの住民と自治』) 6-11頁	2021. 1
	論文(単著)	「自助・共助、デジタル化と特異な『社会保障観』」(『経済』新日本出版社)	2021. 2
石田賀奈子	著書(分担執筆)	『ケースの発見とエンゲージメント (インテーク)』(ソーシャルワーク演習 第 5 章第 1 節, 中央法規)128-139頁	2021. 2

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
石田賀奈子	論文(共著)	“COVID-19 in Japan, Part 1: The impact on social foster care” (The Scottish Journal of Residential Child Care, SJRCC Special Feature: Reflection on COVID-19,) pp.1-6	2020.9
	論文(共著)	“COVID-19 in Japan, Part 2: The impact on social foster care leavers” (The Scottish Journal of Residential Child Care, SJRCC Special Feature: Reflection on COVID-19,) pp.1-7	2020.9
	論文(共著)	「里子及び里親の状況と里親からみた里子の well-being の関連」(「子ども家庭福祉学」20号, 日本子ども家庭福祉学会) 1-13頁	2020.11
	論文(共著)	「社会的養護における行動上の困難さを持つ子どもの措置変更—社会的養護における措置変更に関するアンケート調査の自由記述の分析—」(石田賀奈子・野口啓示・伊藤嘉余子, 「立命館産業社会論集」56巻3号, 立命館大学産業社会学会) 37-51頁	2020.12
石田 智巳	論文(単著)	「『認識の節』について: 佐々木賢太郎と紀南作文教育研究会の議論」(『体育学研究』65, 一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会) 89-105頁	2020.12
	論文(共著)	「京都支部のソフトバレーの実践より」(中野真雄・竹谷寛子・石田智巳, 『たのしい体育・スポーツ』40 (1)) 64-67頁	2021.1
	論文(単著)	「体育で大切にしたいこと—学びの事実を目を向ける—」(『わかやまの子どもと教育』79号, 和歌山県国民教育研究所) 3-7頁	2021.3
市井 吉興	著書(共著)	『変容するスポーツ政策と対抗点: 新自由主義国家とスポーツ』(棚山研・山下高行・市井吉興・笹生心太・青野桃子・川口晋一, 創文企画) 第6章	2020.6
	論文(単著)	「創造的復興と延期された2020東京オリンピック: パンデミック下で進行する憲法改正の「正当化」」(月刊『福祉のひろば』)	2020.6
	論文(単著)	「『創造的復興』と延期された2020 東京オリンピック—例外状態・ニュー・ノーマル・ライフスタイルスポーツ」(『大原社会問題研究所雑誌』742号, 大原社会問題研究所) 67-83頁	2020.8
	論文(単著)	「新たなスポーツの潮流と学校体育のゆらぎ」(体育社会学専門領域研究会年報「体育社会学」2, 日本体育学会) 1-26頁	2021.3
	研究発表等 (単独)	「新たなスポーツの潮流と学校体育のゆらぎ」(2020年度日本体育学会体育社会学専門領域研究会)	2020.11
	研究発表等 (単独)	「日本におけるニュースポーツとライフスタイルスポーツの系譜と課題」(日本スポーツ社会学会第30回大会実行委員会企画シンポジウム: スポーツ文化を革新する新潮流とスポーツ社会学の「課題」)	2021.2
	研究発表等 (共同)	「ライフスタイルスポーツの「競技化」と「取り込み」をめぐるカルチュラルポリテクス: パルクール・スポーツ化・商業化」(平石貴士・市井吉興, 日本スポーツ社会学会第29回大会)	2020.6
	研究発表等 (共同)	「日本におけるパルクールの早期実践者たちについての事例報告: スタイルの分化・ジム経営と教育・環境の用具化」(平石貴士・三谷舜・市井吉興, 日本スポーツ社会学会第30回大会)	2021.2
伊東 寿泰	著書(共著)	『ここが変わった! 「聖書協会共同訳」新約編』(浅野淳博・伊東寿泰・須藤伊知郎・辻学・中野実・廣石望, 日本キリスト教団出版局)	2021.3
	研究発表等 (単独)	「時代錯誤か、有効か——現代の文学的方法のヨハネ福音書解釈への適用をめぐって」(日本新約学会第60回大会)	2020.9
上原 徳子	著書(共訳)	「時のきざし現代中華 SF 傑作選」(立原透耶 [編], 新紀元社) 171-220頁	2020.7

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
上原 徳子	研究発表等 (単独)	「外語版〈杜十娘〉小考」(第四届世界汉学论坛)	2020.8
	研究発表等 (単独)	「英語版「杜十娘」について—近代における中国古典小説受容として」(2020年度第1回・中国語圏地域人文学研究会)	2021.3
江口 友朗	論文(単著)	「アジア的な社会保障・福祉システムの数理モデル化とその比較:7か国での「私的な相互援助」の実態に着目して」(『旭硝子財団助成研究成果報告:2020』)1-8頁	2020.9
	研究発表等 (単独)	“Several Academic Back Grounds and Our Research: from the view of Interdisciplinary Studies” (“International Conference: Ecological- Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries: Based on Interdisciplinary Studies”)	2021.3
呉 世雄	論文(単著)	「日本における社会福祉法人の新たな役割」(『月刊 福祉ジャーナル』140号, 韓国社会福祉協議会)54-57頁	2020.4
	論文(単著)	「日本の地域包括ケアの事例—広島県御調町の挑戦と成果」(『月刊 福祉ジャーナル』141号, 韓国社会福祉協議会)60-63頁	2020.5
	論文(単著)	「日本における地域包括ケアの制度化過程と特徴」(『月刊 福祉ジャーナル』142号, 韓国社会福祉協議会)62-53頁	2020.6
	論文(単著)	「日本の地域包括ケアと在宅サービス」(『月刊 福祉ジャーナル』144号, 韓国社会福祉協議会)60-63頁	2020.8
	論文(単著)	「日本の COVID19に関する支援制度— COVID19と経済活性化対策」(『月刊 福祉ジャーナル』146号, 韓国社会福祉協議会)58-61頁	2020.10
	論文(単著)	「日本のふるさと納税制度の現状と課題」(『月刊 福祉ジャーナル』147号, 韓国社会福祉協議会)58-61頁	2020.11
	論文(単著)	「日本における引きこもりの長期化・高齢化と8050問題」(『月刊 福祉ジャーナル』148号, 韓国社会福祉協議会)58-61頁	2020.12
	論文(単著)	「日本における COVID19と自殺問題」(『月刊 福祉ジャーナル』149号, 韓国社会福祉協議会)64-67頁	2021.1
	論文(共著)	「日本の地域包括ケアの事例—埼玉県和光市の成果」(金吾燮・呉世雄, 『月刊 福祉ジャーナル』143号, 韓国社会福祉協議会)58-61頁	2020.7
	論文(共著)	「日本の COVID19に関する支援制度—危機克服のためのセーフティネット」(呉世雄・金吾燮, 『月刊 福祉ジャーナル』145号, 韓国社会福祉協議会)58-61頁	2020.9
大谷いづみ	論文(単著)	“The Covid-19 Crisis and the Experience of Polio Survivors: Life Before and After a Pandemic” (SPECIAL SECTION on COVID-19 and Persons with Disabilities in East Asia, Ars Vivendi Journal, No.13 (March 2021) pp.47-53	2021.3
	研究発表等 (単独)	「忘れられた感染症、ポリオ」のサバイバーとして聴く」(閉会挨拶に代えて)(オンラインセミナー「新型コロナウイルス感染症と生存学」)	2020.5
	研究発表等 (単独)	「移動・情報／教育・労働のアクセシビリティ——〈障害児・学生〉と〈障害のある教員〉の経験から」(土曜講座代替企画 ウィズコロナ／アフターコロナのアクセシビリティ)	2020.7
	研究発表等 (単独)	“The Covid-19 Crisis and the Experience of Polio Survivors: Life Before and After a Pandemic” (East Asia Disability Studies Forum 2020 Webinar on COVID-19 and Persons with Disabilities in East Asia)	2020.7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
大谷いづみ	研究発表等 (単独)	「<問>の生を聴く、<問>の生を語る——「わたし・たち」の物語のために」(緊急 zoom セミナー 2 いのちを語る——安楽死・尊厳死言説といのちの学び)	2020.10
	その他(単独)	「生きたい気持ち守れ(相論対論 再燃する「安楽死」議論)」(『中外日報』4面)	2020. 8
	その他(共同)	「生きて存るを学ぶ「生存学」——立命館大学生存学研究所」(『同朋』2020年12月号 72巻12号通巻836号)18-19頁	2020.12
大谷 哲弘	著書(共著)	『かわりづくりワークショップ—緊張と不安がすーっと消える入学オリエンテーション—』(大谷哲弘・粕谷貴志, 図書文化) 2-3, 6-7, 10-30, 52-55, 64-88, 90-143, 150-159, 162-165頁	2020. 6
	論文(共著)	「Career Beliefs Inventory (CBI) の信頼性・妥当性の課題」(森本康太郎・大谷哲弘, 日本産業カウンセリング学会オンライン論集『日本産業カウンセリング学会 TODAY』3 (2)) 1-12頁	2020. 9
	論文(共著)	“The effects of short-term mindfulness-based group intervention utilising a school setting for Japanese adolescents with trauma” (Ito, D., Kubo, Y., Takii, A., Watanabe, A., Ohtani, T. & Koseki, S., “Journal of Psychologists and Counsellors in Schools”)	2020.11
	研究発表等 (共同)	「高卒就職者の離職意思—高校3年時に備えられること—」(大谷哲弘・山本奨, 日本教育心理学会第62回総会発表論文集)273頁	2020. 9
	研究発表等 (共同)	「東日本大震災後の児童生徒の震災トラウマの収束—要支援者率の推移による推計—」(山本奨・大谷哲弘, 日本教育心理学会第62回総会発表論文集)247頁	2020. 9
岡田 桂	著書(分担執筆)	『映像で学ぶ舞踊学: 多様な民族と文化・社会・教育から考える』(弓削田綾乃・高橋京子・瀬戸邦弘・相原進・遠藤保子編著, 大修館書店)113頁	2020. 4
	研究発表等 (単独)	「ジェンダーからセックスへ?: オリンピック憲章にみるスポーツのセックス (身体)化と LGBT 内秩序」(スポーツ社会学会第 30 回大会 研究委員会企画シンポジウム「性の多様性をめぐるスポーツと権力」2021年2月28日)	2021. 2
岡田 まり	著書(共編者 (共編著者))	「ソーシャルワークの目標と展開過程」『ソーシャルワークの課程—プランニング—』『スーパービジョンとコンサルテーション』(一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』, 中央法規)35-40頁, 76-92頁, 340-354頁	2021. 2
	著書(共編者 (共編著者))	「ソーシャルワーク演習の意義と目的」(一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワーク演習 [共通科目]』, 中央法規)2-10頁	2021. 2
	著書(分担執筆)	「社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー」(一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職』, 中央法規)36-50頁	2021. 2
	著書(分担執筆)	「事例検討・事例分析・事例研究」(一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門]』, 中央法規)222-250頁	2021. 2
	訳書(共訳)	「論理学」(岡田進一・岡田まり共訳)フレデリック・G・リーマー著 秋山智久監訳 (『ソーシャルワークの哲学的基盤: 理論・思想・価値・倫理』, 明石書店)pp.115-159	2020. 7

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
岡田 まり	訳書(共訳)	「スーパービジョンの統合アプローチ」,「スーパービジョン関係を形成する」, ジューン・ワナコット(著), 野村豊子・片岡靖子・岡田まり・潮谷恵美(翻訳)(『スーパービジョントレーニング:対人援助専門職の専門性の向上と成長を支援する』学文社)pp.29-46, pp.47-60	2020.8
	報告書 (共同)	厚生労働省生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業「地域共生社会の実現に向けた現任社会福祉士の研修プログラムの開発とスーパービジョンの実態把握に関する調査研究」(公益社団法人日本社会福祉士会)	2021.3
	報告書 (共同)	厚生労働省生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業「新たな社会福祉士養成カリキュラムにおける教員研修のあり方に関する調査研究事業」(日本ソーシャルワーク教育学校連盟)	2021.3
岡本 尚子	論文(共著)	「いばらきコホート調査」における調査設計と概要」(妹尾麻美・孫怡・肥後克己・神崎真美・中田友貴・川本静香・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子, 日本保健福祉学会誌 26 (2)) 5-16頁	2020.6
	論文(共著)	「いばらきコホート調査」における倫理的配慮」(神崎真美・川本静香・妹尾麻美・中田友貴・肥後克己・孫怡・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子, 日本保健福祉学会誌 26 (2))17-25頁	2020.6
	論文(共著)	「実物・タブレット・紙面における立体図形課題遂行時の学習者の解決方略の特徴—生体情報を用いた分析を通して—」(木下卓海・岡本尚子・黒田恭史, 数学教育学会誌 61 (1・2))89-97頁	2020.9
	論文(共著)	“The Psychological Effects of Feedback on Students: Experimental Research Using a Psychophysiological Approach” (Naoko Okamoto, Yasufumi Kuroda, “The Journal of Information and Systems in Education” 19(1)) pp.38-43	2020.9
	研究発表等 (単独)	「シンガポールの算数科における unit の扱い」(数学教育学会2020年度秋季例会)	2020.9
	研究発表等 (単独)	「シンガポールにおける初等教員養成—数学教育を中心に—」(日本教育実践学会 第23回研究大会)	2020.11
	研究発表等 (共同)	「教師の経験や知識は学習者観察の視点に違いをもたらすのか—筆算観察時の視線計測—」(岡本尚子・黒田恭史, 第38回日本生理心理学会大会)	2020.5
	研究発表等 (共同)	「唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態および子どもの社会性と気質の検討」(肥後克己・岡本尚子・孫怡・妹尾麻美・神崎真実・川本静香・中田友貴・李星鎬・矢藤優子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子, 第38回日本生理心理学会大会)	2020.5
	研究発表等 (共同)	“The subjective well-being of women during the transition from pregnancy to postpartum in Japan” (Sun Yi, Asami Senoo, Shizuka Kawamoto, Katsumi Higo, Mami Kanzaki, Yuki Nakata, Naoko Okamoto, Yuko Yasuda, Tatsuya Sato, Hanako Suzuki, Yuko Yato, 日本健康心理学会 第33回大会)	2020.11
	研究発表等 (共同)	“Characteristics of order memory and its relation to problem-solving” (Katsuki Higo, Naoko Okamoto, “Psychonomic Society's 61th Annual Meeting”)	2020.11
	研究発表等 (共同)	「割合の文章題の指導について—視線移動に着目して—」(岡田祐佳・岡本尚子・黒田恭史, 教育システム情報学会2020年度学生研究発表会)	2021.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡本 尚子	研究発表等 (共同)	「メンタルローテーション課題時の視線移動の特徴の考察」(近藤竜生・岡本尚子・黒田恭史, 教育システム情報学会2020年度学生研究発表会)	2021. 3
	研究発表等 (共同)	「コロナ感染拡大に伴う育児環境の変化が親子に及ぼす影響 一日中比較調査」(孫怡・矢藤優子・連傑濤・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・破田野智己・土元哲平・神崎真実, 日本発達心理学会第32回大会)	2021. 3
	研究発表等 (共同)	「乳児の社会性発達と養育者のかかわりの質に関する縦断的研究—生後1・3・6ヵ月齢の行動観察から—」(矢藤優子・孫怡・藤戸麻美・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・破田野智己・土元哲平・神崎真実, 日本発達心理学会第32回大会)	2021. 3
	研究発表等 (共同)	「一斉休校期間における保護者の意識調査をもとにした情報配信のあり方」(黒田恭史・岡本尚子, 日本教育工学会2021年春季全国大会)	2021. 3
	その他 (単独講演)	「生理学的アプローチによる学習・教育研究」(立命館大学教職研究科「算数・数学科教育実践研究」)	2020.10
小澤 亘	論文(共著)	京都市一人暮らし高齢者全戸訪問事業に基づく福祉 GIS 活用の試み—地域福祉デジタル情報化課題の一考察— (上)(小澤亘・矢野桂司・中谷友樹・加藤博史, 『立命館産業社会論集』56巻1号)109-129頁	2020. 6
	論文(共著)	京都市一人暮らし高齢者全戸訪問事業に基づく福祉 GIS 活用の試み—地域福祉デジタル情報化課題の一考察— (下)(小澤亘・矢野桂司・中谷友樹・加藤博史, 『立命館産業社会論集』56巻2号)45-63頁	2020. 9
御旅屋 達	論文(単著)	“How Has the Support Called “Ibasho” been Discussed?” (Educational Studies in Japan vol.15) pp.17-26	2021. 3
	その他 (単独講演)	「なぜ〈当事者〉会なのか」(発達障害当事者会運営者人材育成研修会)	2020.11
角田 将士	著書(分担執筆)	『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』(学術図書出版)31-40頁	2020. 4
	著書(分担執筆)	『多様化時代の社会科授業デザイン』(金子邦秀監修 学校教育研究会編, 晃洋書房)73-82頁	2020.12
	論文(単著)	「見方・考え方はどのように働かせるの? 歴史」(日本文教出版編『中学社会見方・考え方はこう働かせる』)4-5頁	2020. 4
	論文(単著)	「読解力・表現力を高める!! 社会科授業で出来る書き方トレーニング『視点や方法(考え方)』を意識して考えたことを書き表す力を鍛える」(明治図書編『社会科教育』734号)4-9頁	2020. 6
	論文(単著)	「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科学習指導の多様性と課題」(公益財団法人 日本教材文化研究財団『主体的・対話的で深い学びを実現する社会科学習指導のあり方』)21-36頁	2020. 9
	論文(単著)	「『歴史的な見方・考え方』と歴史的分野の授業づくり」(日本文教出版『中学社会 歴史的分野 教師用指導書 学習指導編』)26-27頁	2021. 3
	その他 (単独講演)	講演 (オンライン)「これからの社会科授業に求められるもの—魅力的な授業づくりに向けて—」(知多社会科同好会)	2021. 1
柏木 智子	研究発表等 (単独)	「学校におけるケア概念の構築」(日本学校改善学会第4回大会)	2021. 1
	その他 (単独講演)	「ICTを活用した公正で質の高い教育の実現に向けた展望と課題」(高度情報技術の進展に応じた教育改革フェイズ2シンポジウム)	2021. 2

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
柏木 智子	その他 (単独講演)	「学びを支えるために、私たちに何ができるか」(『学校が「とまった」日』出版記念シンポジウム)	2021.3
加藤 潤三	著書(分担執筆)	「やろうか、やるまいか…」(谷口淳一・西村太志・相馬敏彦・金政祐司(編著),『エピソードでわかる社会心理学(新版)』北樹出版)	2020.4
	論文(共著)	「移住動機による地方移住者の適応プロセスの比較:沖縄の移住者の適応曲線の分析から」(加藤 潤三・前村 奈央佳,『立命館産業社会論集』56巻4号,立命館大学産業社会学会)53-63頁	2021.3
加藤 雅俊	論文(単著)	「福祉国家論からみる自由民主主義体制の存立構造—政治システムのインプット、アウトプット、前提に注目して—」(筑摩書房年報政治学2020-Ⅱ「自由民主主義の再検討」)15-36頁	2020.12
	論文(単著)	「長崎県諫早市・雲仙市域における地域活性化の可能性と課題—大規模公共事業と市町村合併を越えて—」(『横浜法学』29巻3号)517-560頁	2021.3
	論文(単著)	「福祉国家の持続可能性に関する一考察—持続可能な福祉国家に向けて—」(『立命館大学人文科学研究紀要』127号)101-123頁	2021.3
	論文(単著)	「現代社会における紛争処理システムの構築に向けて—諫早湾干拓紛争を手がかりとして—」(『立命館大学人文科学研究紀要』127号)195-229頁	2021.3
	論文(共著)	“A corporate-centred conservative welfare regime: three-layered protection in Japan.” (Masato Shizume, Masatoshi Kato & Ryoza Matsuda, “Routledge Journal of Asian Public Policy” 14(1)) pp.110-133	2021.1
	論文(共著)	「諫早湾干拓事業の影響に関する地域住民の認識—諫早市民と雲仙市民を対象としたアンケート調査から見えること—」(加藤雅俊・樫澤秀木・開田奈穂美,『建築ジャーナル』1315号)18-21頁	2021.3
	研究発表等 (単独)	「『活力ある地域社会の形成』研究プロジェクトの目的と概要—諫早市および雲仙市の住民を対象としたアンケート調査を中心に—」(日本環境会議「諫早湾干拓問題検証委員会」第5回全体会議)	2020.8
	研究発表等 (単独)	「『活力ある地域社会の形成』に関するアンケート調査の報告—諫早湾干拓事業とその影響をめぐる質問を中心に—」(日本環境会議「諫早湾干拓問題検証委員会」第9回全体会議)	2020.12
	研究発表等 (単独)	“Theoretical Importance of Exceptional Cases: Japan and Australia in Comparative Welfare State Research” (The 2020 RC19 Conference, Session: 2 A Asian-Pacific Welfare States in Perspective)	2020.12
	研究発表等 (単独)	“Japanese Social Protection in Transition: from the Employment-based Welfare State to Market-friendly Welfare State” (International Conference “Ecological- Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries: Based on Interdisciplinary studies”)	2021.3
金澤 悠介	研究発表等 (共同)	「抗議をいやがる理由 ～社会運動への肯定感・忌避感を規定する要因の研究～」(富永京子・金澤悠介, 日本 NPO 学会第22回年次大会)	2020.11
金山 千広	著書(単著)	『特集 知的障がい者の運動スポーツ指導:健康運動指導士には知的障がい者スポーツ推進に向けて、運動指導や連携の橋渡し役を期待している』(公益財団法人 健康・体力づくり事業団健康づくり 514) 2-7 頁	2021.2
	著書(単著)	『新型コロナウイルス流行下における障害者スポーツの取り組み』(公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究2020年度報告書)35頁	2021.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
金山 千広	研究発表等 (単独)	「コロナ禍における障害者優先スポーツ施設の再開情報発信に関する基礎的研究:遠隔授業に伴う大学生の「調べ学習」を通して」(日本アダプテッド体育・スポーツ学会 (JASAPE) 25回学会大会)	2020.12
	研究発表等 (共同)	「障害者スポーツ指導者の社会的勢力に関する基礎的研究:障害者アスリートが知覚する関係性の観点から」(日本アダプテッド体育・スポーツ学会 (JASAPE) 第25回学会大会)	2020.12
	研究発表等 (共同)	「パラ水泳レースを観戦した中・高校生の観戦意識の特徴:異なる観戦条件の比較から」(日本アダプテッド体育・スポーツ学会 (JASAPE) 第25回学会大会)	2020.12
	その他(単独)	「パラ向け体育館床優先」(毎日新聞)	2020. 6
	その他(単独)	「東京五輪パラ延期でテスト大会に暗雲 GoTo「あの街」で問題クリア?」(毎日新聞)	2020. 7
	その他(単独)	「特集パラリンピック「共生社会」パラの理念普及、コロナで足踏み 専門家はこう見る」(毎日新聞)	2021. 2
金子 史弥	著書(共著)	『2020東京オリンピック・パラリンピックを社会学する』(日本スポーツ社会学会編集企画委員会, 創文企画)151-176頁	2020. 4
	論文(単著)	「オリンピック・パラリンピックは開催都市に何を「遺す」のか?——2012年ロンドン大会の<スポーツ的レガシー>に関する考察」(法政大学大原社会問題研究所『大原社会問題研究所雑誌』742号)41-66頁	2020. 8
	その他(単独)	「五輪「延期」を問う 消えた2020夏—「憲章」を軽視 矛盾露呈」(『京都新聞』)	2020. 5
川口 晋一	著書(共著)	『変容するスポーツ政策と対抗点—新自由主義国家とスポーツ—』(棚山研・市井 吉興・山下高行 (編), 創文企画)	2020. 6
	著書(共著)	『はじめてのメディア研究〔第2版〕—「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』(浪田 陽子・福間 良明 (編), 世界思想社)	2021. 1
権 学俊	著書(単著)	『スポーツとナショナリズムの歴史社会学—戦前=戦後日本における天皇制・身体・国民統合』(ナカニシヤ出版)	2021. 3
黒田 学	著書(分担執筆)	『現代の特別ニーズ教育』(高橋智・加瀬進監修, 日本特別ニーズ教育学会編, 文理閣)290-298頁	2020. 6
	論文(単著)	[エッセイ]「ベトナムの障害者問題を追って25年余」(『人間発達研究所通信』36 (1))20-26頁	2020. 6
	研究発表等 (単独)	“A Significance of Early Intervention System as Transition to School Education on the Experience in Japan” (THE INTERNATIONAL CONFERENCE ON SPECIAL EDUCATION 2021 “Early Intervention - Supporting for Development of Inclusive Education for Children with Developmental Disabilities”)	2021. 1
	研究発表等 (共同)	【指定討論者の発言】「日本・ASEAN ネットワーク」形成と「国際連携プログラム」の構築に向けて (自主シンポジウム4「特別支援教育の国際連携に関する研究その2ベトナムとのグローバルネットワークの構築」)(企画者・池谷尚剛 (岐阜大学教育学部), 司会者・安田和夫 (岐阜聖徳学園大学教育学部), 話題提供者・池谷尚剛 (岐阜大学教育学部), 鈴木祥隆 (岐阜大学教育学部), Do Long Giang (ベトナム特別支援教育研究所), 指定討論者・黒田学, 日本特殊教育学会 第58回大会 (2020 WEB 大会))	2020. 9

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
斎藤 真緒	論文(単著)	「イギリスにおけるヤングケアラー支援—シェフィールドを中心に」(大阪ボランティア協会『ウォロ』535(2021年2・3月号)5-5頁	2021.2
坂田 謙司	論文(共著)	「ラジオ番組制作は、キャリア教育に活用できるのか(1)」(坂田謙司・都築美代子(石倉美佳),『立命館産業社会論集』56巻3号,立命館大学産業社会学会)111-123頁	2020.12
		「ラジオ番組制作は、キャリア教育に活用できるのか(2)」(坂田謙司・都築美代子(石倉美佳),『立命館産業社会論集』56巻4号,立命館大学産業社会学会)115-123頁	2021.3
坂本 利子	論文(共著)	“Making online collaborative learning relevant and effective among students with diverse cultural backgrounds: Evidence from Japanese universities” (T. Sakamoto, A. Honda, P. B. Kanduboda, 2021.3, International Technology, Education and Development Conference, INTED 2021 Proceedings) pp. 8166-8173	2021.3
	研究発表等 (共同)	“MAKING ONLINE COLLABORATIVE LEARNING RELEVANT AND EFFECTIVE AMONG STUDENTS WITH DIVERSE CULTURAL BACKGROUNDS: EVIDENCE FROM JAPANESE UNIVERSITIES” (T. Sakamoto, A. Honda, P. B. Kanduboda, 15th International Technology, Education and Development Conference, 2021.3, Valencia, Spain.)	2021.3
桜井 啓太	著書(共編者 (共編著者))	『自立へ追い立てられる社会』(広瀬義徳・;桜井啓太,インパクト出版会)	2020.7
	論文(単著)	「生活保護と高等教育: 諸課題と近年の政策動向(教育の「貧困化」と教育法)—(公開シンポジウム 貧困・格差と子どもの権利)」(『有斐閣日本教育法学会年報』(49))124-133頁	2020.4
	論文(単著)	「生活保護ケースワーク業務の外部委託化提案の経緯とこれから(特集 生活保護ケースワーク業務の外部委託を問う)」(『賃社編集室賃金と社会保障 = Wage & social security』(1754))4-22頁	2020.5
	論文(単著)	「生活保護ケースワークの外部委託化提案の経緯と今後(特集 ケースワーク業務を手放していい?)」(全国公的扶助研究会: [19-]-『公的扶助研究』(258))9-13頁	2020.7
	研究発表等 (単独)	「生活保護申請の水際傾向の可視化: 福祉事務所の比較分析を通して」(貧困研究会 第13回研究大会 自由論題)	2020.12
櫻井 純理	著書(編者 (編著者))	『どうする日本の労働政策』(ミネルヴァ書房)	2021.3
笹野恵理子	著書(単著)	『学校音楽の「カリキュラム経験」—潜在的カリキュラムの生成過程—』(多賀出版)全384頁	2021.2
	論文(単著)	「学校文化を創造するカリキュラムマネジメント」(広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』(1238))6-13頁	2020.10
	研究発表等 (単独)	「学校音楽の「カリキュラム経験」—生徒の「教科経験」の意味付与—」(日本教育学会第79回大会, 於: 神戸大学(オンライン開催))	2020.8
鎮目 真人	著書(単著)	『年金制度の不人気改革はなぜ実現したのか—1980~2016年改革のプロセス分析—』(ミネルヴァ書房)	2021.1
	著書(分担執筆)	『社会福祉士養成 基本テキスト第3巻』(行貞伸二監修, 日総研出版)18-31頁	2020.4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
鎮目 真人	著書(分担執筆)	『よくわかる福祉社会学』(武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明編著, ミネルヴァ書房)	2020.10
	著書(分担執筆)	『年金—どうする老後の貧困』(埋橋孝文編, ミネルヴァ書房『どうする日本の福祉政策』)	2020.10
	論文(共著)	“A corporate-centred conservative welfare regime: three-layered protection in Japan.” (Masato Shizume, Masatoshi Kato & Ryoza Matsuda, RoutledgeJournal of Asian Public Policy 14(1)) pp.110-133	2021. 1
	研究発表等 (共同)	“Corporate-centered Conservative Welfare Regime as Japanese Welfare model: A Unified Typology of Welfare and Production Regimes” (Masato Shizume, Masatoshi Kato, and Ryoza Matsuda, International Sociological Association RC 19 Annual Meeting)	2020.12
下條 正純	論文(単著)	「調査結果に見るライトノベルの文末表現とキャラクターの繋がり」(『立命館産業社会論集』56巻3号, 立命館大学産業社会学会)125-133頁	2020.12
杉本通百則	論文(単著)	「ドイツの科学技術・産業政策における産学公連携の特質—it's OWL を中心に—」(日本科学史学会科学史研究 59 (295))221-227頁	2020.10
	論文(共著)	「ドイツヘッセン州ミッテルヘッセン地域における産業IoTの取り組み—「インダストリー4.0」調査報告 (Bender / Rittal / Schneider)—」(杉本通百則・中村真悟・藤谷麻菜, 立命館大学地域情報研究所 R-RDIRI Forum -Working Paper- No.5) 1-18頁	2021. 1
住田 翔子	著書(共著)	『はじめてのメディア研究〔第2版〕—「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』(世界思想社)	2021. 2
	研究発表等 (単独)	「バルクールと都市文化—都市のみかたとつかいかた」(ワークショップ「バルクールの実践と研究—最先端の身体文化／スポーツの発展と理解を目指して—」)	2021. 3
高橋 顕也	著書(共著)	はじめてのメディア研究〔第2版〕「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで (世界思想社)131-155頁	2021. 2
	論文(単著)	「社会学的システム理論におけるメディア・形式・時間・システム概念の数理的構造をめぐる試論」(神戸大学社会学研究会社会学雑誌 37)103-111頁	2020. 8
	研究発表等 (単独)	「社会学的システム理論におけるメディア・形式・時間・システム概念の数理的構造をめぐる試論 —社会学的時間概念の公理論化 (2)—」(第71回関西社会学会)	2020.10
竹内 謙彰	論文(単著)	「主体的学びが成立するための条件の探求」(『立命館産業社会論集』56巻2号, 立命館大学産業社会学会) 1-20頁	2020. 9
	論文(単著)	「小学生における自己理解の研究手法と見出された発達的特徴—日本における20答法を用いた研究を中心に—」(『立命館産業社会論集』56巻4号, 立命館大学産業社会学会) 1-20頁	2021. 3
	研究発表等 (共同)	「20 答法の回答からみた小学生の発達的特徴—「好き」および「嫌い」の記述に着目した分析—」(竹内謙彰・富井奈菜実・松島明日香・松元佑・荒木穂積・中村隆一, 日本発達心理学会第32回大会)	2021. 3
武岡 暢	著書(共訳)	『21世紀を生きるための社会学の教科書』[第8章 ビジョン——社会学的希望を創造する](赤川学監訳, 筑摩書房)	2021. 1
	その他(単独)	「「夜の街」から考える コロナと新宿 下」(共同通信 (地方紙配信記事))	2020. 6

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
武田 淳	論文(単著)	“Transnational mobility to South Korea among Japanese students: When popular culture meets international education” (Taylor&Francis Asian Anthropology 19(4)) pp.273-290	2020.4
竹濱 朝美	論文(共著)	「東日本地域における風力大量導入による2030年の電力需給、地域間連系線と炭素税の効果検証」(竹濱朝美・歌川学・斎藤哲夫、日本風力エネルギー学会第42回風力エネルギー利用シンポジウム 42)212-215頁	2020.11
	論文(共著)	「変動性再生可能電源による2030年の電力需給、地域間連系線増強と炭素税の効果検証」(竹濱朝美・歌川学、『第37回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス講演論文集』37, エネルギー資源学会)157-162頁	2021.1
	研究発表等 (単独)	“Large-Scale Integration of Renewable Energy in 2030: Supply-demand Balance in the Grid and Challenges in the Regulatory Framework” (2021 Annual Conference of the German Association for Social Science Research on Japan “Continuity and Change 10 years after 3.11”)	2021.3
田村 和宏	著書(単著)	『学童保育における障がいのある子どもの生活を支える到達と課題』(一般社団法人日本学童保育士協会『学童保育研究』(21))14-23頁	2020.12
	著書(共著)	『5. 医療的ケア児への支援』(『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士余生講座障害者福祉』, 中央法規出版)	2021.2
	論文(単著)	「学童保育における障がいのある子どもの生活を支える到達と課題」(一般社団法人日本学童保育士協会 (21))14-23頁	2020.12
丹波 史紀	著書(共著)	『福島の子どもたち—おとなは何ができたのか』(鈴木庸裕編著, 伊藤弥・井戸川あけみ・大久保尚也他, かもがわ出版)	2021.2
	著書(分担執筆)	『総合検証 東日本大震災からの復興』(五百旗頭真・御厨貴・飯尾潤監修／ひょうご震災記念21世紀研究機構編, 岩波書店)81-98頁	2021.2
	論文(単著)	「避難者・帰還者の生活実態」(『学術の動向』26 (3))34-37頁	2021.3
	論文(単著)	「長期避難を強いられる原発避難者」(『建築とまちづくり』(505))33-36頁	2021.3
	研究発表等 (単独)	「東日本大震災・原発事故から10年間の総括、避難・帰還の現場から」(日本協同組合学会第40回大会 大会シンポジウム)	2020.8
筒井 淳也	著書(単著)	『社会を知るためには』(筑摩書房)全221頁	2020.9
	著書(分担執筆)	「日本の雇用と女性の労働力参加: 企業規模ごとの「働きやすさ」の分析」安藤史江編『変わろうとする組織・変わりゆく働く女性たち: 学際的アプローチから見据える共幸の未来』(第1章執筆, 晃洋書房)3-15頁	2020.11
	論文(単著)	「文系縮小圧力のなかでの社会学の立ち位置: 科学との類似性と異質性のあいだで」(『フォーラム現代社会学』19巻)48-58頁	2020.5
	研究発表等 (単独)	「人口減少と社会の構造変化」(ひょうご講座, 2020年9月9日)	2020.9
	研究発表等 (共同)	「中国現代都市家族の双系化傾向: CFPS-2016による分析」(リ・ウエンウエン・筒井淳也, 日本家族社会学会, 2020年9月12-13日)	2020.9
	研究発表等 (共同)	“Gender Differences in Intergenerational Relationships in Contemporary Urban China” (LI Wenwen, Junya TSUTSUI, The 13th Next-Generation Global Workshop, 2020.11.21-22)	2020.11
津止 正敏	著書(単著)	『男が介護する一家族のケアの実態と支援の取り組み—』(中公新書)全256頁	2021.2

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
津止 正敏	論文(単著)	「『男性介護者』の現状と支援の課題」(一般社団法人地域生活研究所『まちと暮らし研究』(31))57-63頁	2020. 6
	論文(単著)	「男性介護者の課題と家族支援」(日総研出版『達人ケアマネ』15 (2))13-18頁	2020.12
	研究発表等 (単独)	「介護役割を担う男性」(日本ジェンダー学会第23回大会)	2020. 9
富永 京子	論文(単著)	"Protest journey: the practices of constructing activist identity to choose and define the right type of activism" (Interface 12(2)) pp.19-41	2020.12
中井 美樹	論文(単著)	"Changes in the Gendered Division of Labor and Women's Economic Contributions Within Japanese Couples" (SpringerAdvanced Studies in Classification and Data Science) pp.471-483	2020. 9
	論文(共著)	"Identifying groups with different traits using fourteen domains of social consciousness: A multidimensional latent class graded item response theory model" (Nakai, Miki and Pennoni, Fulvia, SpringerTadashi Imaizumi, Atsuhiko Nakayama, and Satoru Yokoyama (Eds.) Advanced Studies in Behaviormetrics and Data Science) pp.233-252	2020. 4
	論文 (その他・書評)	Gill Steel. Beyond the Gender Gap in Japan. Ann Arbor: University of Michigan Press, 2019. pp. 286, \$80.00 (hard back ISBN 978-0-472-13114-3) March 2021, International Journal of Japanese Sociology, Number30, pp.197-199. https://doi.org/10.1111/ijjs.12119	2021. 3
長澤 克重	著書(分担執筆)	『はじめてのメディア研究 [第2版]』(浪田陽子・福岡良明, 世界思想社)	2021. 2
永島 昂	論文(単著)	「DMG 森精機の「インダストリー4.0」に向けた取り組み」(『科学史研究』[第Ⅲ期] (295))227-231頁	2020.10
中西 純司	論文(単著)	「スポーツの価値と地域社会の活力」(『みんなのスポーツ』43 (3), (株)日本体育社)12-14頁	2021. 3
	論文(共著)	「スポーツという「不便益」文化論の展開—もう1つのスポーツ文化論への挑戦—」(中西純司・岡村誠・行實鉄平, 『立命館産業社会論集』56巻1号, 立命館大学産業社会学会)155-178頁	2020. 6
	研究発表等 (共同)	「『コミュニティガバナンス』としての総合型地域スポーツクラブの展望」(行實鉄平・中西純司, 地域社会学会第45回学会大会)	2020. 8
		「市町村におけるスポーツ政策形成過程のリアリティ: スポーツ政策共創の実践を求めて」(岡村誠・中西純司, 日本体育・スポーツ政策学会第30回大会)	2020.11
	その他 (単独講演)	「スポーツの文化的価値と「豊かな生活」の創造」(京都府議会文化・スポーツ振興対策特別委員会)	2021. 3
中西 典子	研究発表等 (単独)	「中央・地方の政府間関係と地方分権改革」(地方分権／地域自治研究会)	2020.11
	その他(単独)	「伏見港公園における淀川水系の治水と三栖開門に関する地域調査」	2020. 8
	その他(共同)	「三条通の近代洋風建築群ならびにまちなみ景観に関するフィールドワーク」	2020.10
中西 仁	論文(単著)	「末廣神輿考—祝祭型神輿の成立—」(佛教大学大学院紀要 (49))45-61頁	2019. 5

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
中西 仁	論文(単著)	「神輿場はなぜ荒れたのか」(京都部落問題研究資料センター2020年度差別の歴史を考える連続講座講演録)105-139頁	2021.3
	研究発表等(単独)	「京都・御霊祭・末廣神輿考—なぜ彼らは「えらいやっちゃ」と踊るように神輿を昇くのか—」(日本民俗学会第72回年会)	2020.10
永野 聡	論文(共著)	「東日本大震災後ゆりあげ港朝市の早期再建に関わる外的要因と施策の研究—類似沿岸商業施設の事業比較と朝市の津波避難事情について—」(日誌博文・永野聡・山田俊亮、(一社)日本建築学会『日本建築学会計画系論文集』86(781))	2021.3
仲間 裕子	論文(単著)	"Landscape Paintings through the Traveler's View" (Mimesis International, Milan; Hasekura League Intercultural Studies Editions Images, Philosophy, Communication 5) pp.63-78	2021.3
	論文(単著)	"Die Moderne des Hugo von Tschudi und Japan" (International Institut für Sprach- und Kulturstudien, der Ritsumeikan Universität, Kyoto Aufbruch der Deutschen Moderne und die Kunst in Berlin) pp.45-62	2021.3
	その他(単独講演)	「光と影のニュルンベルク—アルブレヒト・デューラーとアンゼルム・キーファーの『マイスタージンガー』」(学びの広場で考える「マイスタージンガー」)	2020.6
	その他(単独講演)	"Wie Bruno Taut die Japanische Ästhetik von "Sinn" und "Einfachheit" Entdeckte"	2021.3
中村 正	著書(共訳)	『マイクロアグレッション—人種、ジェンダー、性的指向:マイノリティに向けられる無意識の差別』(朴希沙・金友子ほか、明石書店)	2020.12
	論文(単著)	「男たちの「暴力神話」と脱暴力臨床論—家庭内暴力の加害者心理の理解をもとにして—」(『子どもの虐待とネグレクト』22(1))50-56頁	2020.4
	論文(単著)	"「地域との協働をかたちにする支援者支援セミナーの経験」(『対人援助学研究』10(6))62-73頁	2020.4
	論文(単著)	「臨床社会学の方法(29)リアリティとは何か—「ひとりだけど、ひとりじゃない」世界から考える」(対人援助学会『対人援助学マガジン』11(1))23-32頁	2020.6
	論文(単著)	「臨床社会学の方法(30)自由に生きるための知」(対人援助学会『対人援助学マガジン』11(2))21-32頁	2020.9
	論文(単著)	"「臨床社会学の方法(31)男らしさを「聴く」」(対人援助学会『対人援助学マガジン』11(3))21-30頁	2020.12
	論文(単著)	"「臨床社会学の方法(32)怒りが暴力を振るわせるのか—感情を生起させる「憎悪・嫌悪」の構図とアンガーマネジメントの乗りこえ—」(対人援助学会『対人援助学マガジン』11(4))26-35頁	2021.3
	研究発表等(単独)	「虐待する父親への「男親塾」の取り組みから」(日本子ども虐待防止学会第26回学術集会)	2020.11
	研究発表等(共同)	「ラウンドテーブル—立ち直りから「居直り」へ—ダルクの多元性・地域性を考える—」(高橋康史・市川岳仁、日本犯罪社会学会第47回大会)	2020.10
	研究発表等(共同)	「フランス児童福祉分野の対人援助—「予防」と「連携」そして「連帯」へ—」(安發明子・中島弘美・中村正(対人援助学会理事長/立命館大学)、対人援助学会第12回大会)	2020.11
	その他(共同)	座談会:「多声的で小さな物語を聴くことの意味—災禍を生き抜くレジリエンスとコミュニティ」(対人援助学研究)	2020.4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
浪田 陽子	著書(共編者 (分担執筆))	『はじめてのメディア研究 [第2版]—「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』(浪田陽子・福岡良明編, 世界思想社)(執筆担当箇所: 第1章「メディア・リテラシー」3-31頁, Column 1「メディア・コングロマリットと民主主義のゆくえ」178-179頁)	2021. 2
根津 朝彦	著書(分担執筆)	『はじめてのメディア研究 第2版—「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』(「ジャーナリズム史研究の方法—戦後日本を中心に」を担当)(浪田陽子・福岡良明 [編], 世界思想社)223-228頁	2021. 2
	研究発表等 (単独)	「コメント 川口悠子「故郷についての移民—占領期の広島と在米広島県人の貿易業者」」(法政大学国際日本学研究所「新しい「国際日本学」を目指して」第9回公開研究会 (Zoom 開催))	2021. 2
	その他(単著)	「根津朝彦のメディア私評 戦後75年 戦争責任を考える、未来への責任」(『朝日新聞』2020年6月12日付)	2020. 6
	その他(単著)	「根津朝彦のメディア私評 ジェンダー平等 まずはメディアが範を示せ」(『朝日新聞』2020年9月11日付)	2020. 9
	その他(単著)	「根津朝彦のメディア私評 天皇制とタブー 敬称報道、批判を抑制しないか」(『朝日新聞』2020年12月11日付)	2020.12
	その他(単著)	「根津朝彦のメディア私評 ジャーナリズム文化 読者とつながり、萎縮せず書こう」(『朝日新聞』2021年3月12日付)	2021. 3
	その他(単著)	「田中優子先生から授かった連」(『社会志林』67巻4号)	2021. 3
野原 博人	著書(共著)	『小学校指導法 理科 教科指導法シリーズ改訂第2版』(石井恭子・市川直子・森本信也・渡辺理文・野原博人他)	2021. 2
	論文(単著)	「『奈良の学習法』にみる対話による学習の実現—構成主義の視点から—」(奈良女子大学附属小学校『学習研究会学習研究』(496))16-21頁	2020.10
	研究発表等 (共同)	「子どものイメージを介した思考・表現によるモデルの構築—思考の可視化としての「見える化」の有効性—」(有泉翔太・野原博人, 日本理科教育学会第59回関東支部大会)	2020.12
	研究発表等 (共同)	「理科授業における成長的思考態度の育成に基づく学習指導の有用性—主体的に学習に取り組む態度の涵養へ寄与する学習に関する動機付け—」(野原博人・森本信也, 日本理科教育学会第59回関東支部大会)	2020.12
長谷川千春	論文(単著)	「社会保障をめぐる攻防 医療保険をめぐる」(新日本出版社『経済』299)55-65頁	2021. 3
	論文(単著)	「アメリカ医療保障改革における医療保険取引所の検証」(生命保険文化センター『生命保険論集』214)	2021. 3
	研究発表等 (単独)	「アメリカ医療保障改革における医療保険取引所 (Health Insurance Exchange or Marketplace)の検証」(保険学セミナー)	2020. 7
春木 憂	研究発表等 (単独)	「ことばの幼小接続期カリキュラムの検討:音韻意識の発達に着目して」(第5回初等教育カリキュラム学会)	2021. 1
樋口 耕一	著書(単著)	『社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展を目指して【第2版】』(ナカニシヤ出版)	2020. 4
	著書(共編者 (共編著者))	『いまを生きるための社会学』(友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典, 丸善出版)	2021. 1
	研究発表等 (単独)	「看護とテキストマイニング」(第24回日本看護管理学会学術集会)	2020. 8

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
樋口 耕一	研究発表等 (単独)	「多言語に対応した計量テキスト分析 ソフトウェア KH Coder —— アンケート自由回答の分析から言語学的分析まで」(韓国日本語学会第41回42回国際学術発表大会)	2020.9
日暮 雅夫	著書(共著) 論文(共著)	『ハーバーマスを読む』(田村哲樹・加藤哲理編, ナカニシヤ出版) 「〈インタビュー〉アメリカ批判理論の発展と今日の課題——マーティン・ジェイに聞く——」(日暮雅夫・マーティン・ジェイ, 『思想』岩波書店 (1153)) 87-91頁	2020.11 2020.5
	研究発表等 (単独)	「新自由主義から権威主義の批判へ—— M. ジェイ・日暮雅夫共編『アメリカ批判理論——新自由主義への応答』の意義」(社会文化学会第23回大会)	2020.12
	研究発表等 (単独)	「全体の構想: 新自由主義から権威主義の批判へ」(オンライン・ワークショップ「アメリカ批判理論からの挑戦」『アメリカ批判理論: 新自由主義への応答』出版記念イベント)	2021.3
日高 勝之	著書(単著)	『「反原発」のメディア・言説史 3. 11以後の変容』(岩波書店)	2021.2
	著書(共著)	『はじめてのメディア研究 [第2版] ～「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』(世界思想社)	2021.1
	著書(共著)	『3. 11を心に刻んで 2021 (岩波ブックレット)』(岩波書店)	2021.3
	論文(単著)	「ワークショップ7 国際学会のすすめ」(『マス・コミュニケーション研究』97巻)213-214頁	2020.6
	論文(単著)	(書評)吉田純編『ミリタリー・カルチャー研究データで読む現代日本の戦争観』～戦争・軍事に関わる興味深い意識調査～ (週刊読書人)	2020.10
	研究発表等 (単独)	「コロナ禍を契機にしての従来型大学教育からの転換の可能性」(日本コミュニケーション学会2021年秋季関西支部大会)	2021.3
	研究発表等 (単独)	「メディア・言説空間における「反原発」の3. 11以後の変容～10年の節目の整理～」(第7回震災問題研究交流会)	2021.3
	その他(共同)	著者インタビュー「なぜ政策が実現しなかったのか〈反原発〉の語られ方を問う」(『京都新聞』2021年3月11日朝刊)	2021.3
	その他(共同)	著者インタビュー「3. 11とコロナ禍に共通するものとは」(NHK ラジオ第1放送『NHK ジャーナル』2021年3月4日放送)	2021.3
	その他(共同)	著者インタビュー「Fukushima nuclear power plant disasters 10 years on」(英国 BBC テレビ, BBC World 放送の報道番組, 2021年3月12日放送)	2021.3
	その他(共同)	著者インタビュー「多士オタ メディア史 日高勝之さん 原発の議論つなぐ見取り」(『共同通信』加盟各紙2021年3月下旬以降掲載)	2021.3
福岡 良明	著書(単著)	『「勤労青年」の教養文化史』(岩波書店 (岩波新書))全304頁	2020.4
	著書(単著)	『戦後日本、記憶の力学: 「継承という残絶」と無難さの政治学』(作品社)全344頁	2020.7
	著書(編者 (編著者))	『戦後博覧会資料集成』第14巻 (福岡良明 (編), ゆまに書房)	2021.3
	著書(共編者 (共編著者))	『はじめてのメディア研究 [第2版]』(浪田陽子・福岡良明編, 世界思想社)	2021.2
	著書(分担執筆)	『近頃なぜか岡本喜八——反戦の技法、娯楽の思想編』(山本昭宏編, みずき書林)	2020.9
	著書(分担執筆)	『近代における熊本の人物群像』(熊本近代史研究会 (編), 熊本近代史研究会)	2021.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
福岡 良明	論文(単著)	「『コロナ』と『戦争の語り』:『あたり障りのなさ』が蔓延する戦後75年」(大阪福祉事業財団『福祉のひろば』(610))24-29頁	2020. 8
	論文(単著)	「『継承』が生み出す『断絶』」(朝日新聞出版『Journalism』(363))12-19頁	2020. 8
	論文(単著)	書評に依て (小特集 合評会の記録:福岡良明『「勤労青年」の教養文化史』を読む)(メディア史研究 (49))52-67頁	2021. 2
	研究発表等 (単独)	書評リプライ (拙著『「勤労青年」の教養文化史』岩波新書, 2020年)(メディア史研究会第303回月例研究会)	2020. 7
	研究発表等 (単独)	「人生雑誌と教養の戦後史——「就職組」の鬱屈と内省・社会批判・宗教の相克」(第1回「メディア宗教」公開研究会:「人生雑誌」からみる教養と宗教)	2020. 8
	研究発表等 (単独)	「地域社会と教養文化の戦後史」(記念講演)(熊本近代史研究会創立60周年記念シンポジウム「近代化と熊本の人物群像」)	2020.11
	研究発表等 (単独)	「勤労青年と教養」の歴史社会学:格差と労働の戦後文化史 (社会政策学会・労働史部会研究会 (2020年度第1回:オンライン))	2020.11
前田 信彦	論文(単著)	「大学におけるキャリア教育と社会正義—社会科学系学部の学生データを用いた探索的分析」(『立命館産業社会論集』56 (1))131-153頁	2020. 6
	論文(単著)	「キャリア教育とケアの倫理—「生き方教育」としてのキャリア教育の探求—」(『立命館産業社会論集』56 (2))21-42頁	2020. 9
	論文(単著)	「大学生の職業キャリア意識に及ぼす経験と自己省察の多様性—修正グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA)による分析—」(『立命館産業社会論集』56 (3))1-19頁	2020.12
	論文(単著)	「キャリア教育の思想的基盤と潮流—「人格の完成」と「勤労」—」(『立命館産業社会論集』56 (4))33-52頁	2021. 3
増田 幸子	論文(単著)	「NHK 連続テレビ小説における「1945年 8月15日」の記憶 (上)」(『立命館産業社会論集』56 (4))21-31頁	2021. 3
松田 亮三	著書(監修)	『社会的弱者への診療と支援 格差社会アメリカでの臨床実践指針』(松田亮三・小泉昭夫監訳, (原著 Talmadge E. King・Margaret B. Wheeler 編))(金芳堂)	2020. 6
	著書(分担執筆)	“2020 International Health Care Systems Profiles” (Ryozo Matsuda, the profiles edited by Roosa Tikkanen, Robin Osborn, Elias Mossialos, Ana Djordjevic, and George A. Wharton, The Commonwealth Fund.)	2020. 6
	論文(単著)	「補論 米国の医療と脆弱な人々」『社会的弱者への診療と支援 格差社会アメリカでの臨床実践指針』(金芳堂)367-371頁	2020. 6
	論文(単著)	「「新型コロナ」から日本の社会を考える (第4回)新型コロナウイルス感染症への対応と保健行政の課題」(自治体研究社『住民と自治』(689))5-8頁	2020. 9
	論文(共著)	“A corporate-centred conservative welfare regime: three-layered protection in Japan.” (Masato Shizume, Masatoshi Kato & Ryozo Matsuda, Journal of Asian Public Policy 14(1) pp.110-133	2021. 1
	論文 (その他・書評)	「立岩真也著『病者障害者の戦後: 生政治史点描』」(立命館大学アジア・日本研究所立命館アジア・日本研究学術年報 (1))125-128頁	2020. 6
	論文(その他・特別報告)	「対人援助での学融研究と社会実装に向けて: 立命館大学人間科学研究所の20年」(『立命館人間科学研究』43号)53-59頁	2021. 3
	研究発表等 (単独)	松田亮三「新型コロナ感染症にみる日本医療機構のレジリエンス」(日本医療福祉政策学会第4回研究例会 (2020年8月8日, オンライン開催))	2020. 8

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
松田 亮三	研究発表等 (単独)	松田亮三「複数の研究法の同時活用—社会科学における展開と課題」(第6回日本混合研究法学会年次大会(JSMR2020), 招待講演(2020年10月25日, オンライン開催))	2020.10
	研究発表等 (単独)	松田亮三「貧困・社会経済格差と不健康—医療利用の背景をふまえた多面的支援」(第22回日本救急看護学会学術集会・教育講演(オンライン・オンデマンド配信, 2020年12月1日～31日))	2020.12
	研究発表等 (共同)	“Corporate-centered Conservative Welfare Regime as Japanese Welfare model: A Unified Typology of Welfare and Production Regimes” (Masato Shizume, Masatoshi Kato, and Ryoza Matsuda, International Sociological Association RC 19 Annual Meeting)	2020.12
	その他(単独)	“Japan’s Response to the Coronavirus (11 April 2020)” (Cambridge Core Blog (https://www.cambridge.org/core/blog/2020/04/11/japans-response-to-the-coronavirus-pandemic/))	2020. 4
	その他(単独)	“Japan’s Response to the Coronavirus - Now updated (18 May 2020)” (Cambridge Core Blog (https://www.cambridge.org/core/blog/2020/04/11/japans-response-to-the-coronavirus-pandemic/))	2020. 5
三笠 利幸	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーと「近代文化」—『倫理』論文は何を問うのか (4)—」(『立命館産業社会論集』56巻1号)179-193頁	2020. 6
	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーと「近代文化」—『倫理』論文は何を問うのか (5)—」(『立命館産業社会論集』56巻2号)65-83頁	2020. 9
	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーと「近代文化」—『倫理』論文は何を問うのか (6)—」(『立命館産業社会論集』56巻3号)53-71頁	2020.12
	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーと「近代文化」—『倫理』論文は何を問うのか (7)—」(『立命館産業社会論集』56巻4号)65-84頁	2021. 3
宮口 幸治	著書(単著)	『不器用な子どもがしあわせになる育て方』(かんき出版)	2020. 7
	著書(単著)	『境界知能とグレーゾーンの子どもたち』(扶桑社)	2020. 8
	著書(単著)	『医者が考案したコグトレ・パズル』(SBクリエイティブ)	2020. 8
	著書(単著)	『感情をうまくコントロールするためのワークブック——学校では教えてくれない 困っている子どもを支える認知ソーシャルトレーニング』(明石書店)	2020. 9
	著書(単著)	『不會切蛋糕的犯罪少年』(台湾版)(遠流)	2020. 9
	著書(単著)	『케이크를 자르지 못하는 아이들』(韓国版)(인플루엔셜)	2020.10
	著書(単著)	『1日5分で認知機能を鍛える! 大人の漢字コグトレ』(東洋館出版社)	2020.11
	著書(単著)	『1日5分 教室のできる漢字コグトレ 中学1～3年生』(東洋館出版社)	2021. 3
	著書(単著)	『의학박사가 만든 공부머리 좋아지는 퍼즐』(韓国版)	2021. 3
	著書(共著)	『1日5分! 教室で使える英語コグトレ 小学5・6年生』(宮口幸治・正頭英和, 東洋館出版社)	2020. 4
	著書(共著)	『NGから学ぶ 本気の伝え方——あなたも子どものやる気を引き出せる!』(宮口幸治・田中繁富, 明石書店)	2020. 4
	著書(共著)	『1日5分! 教室で使える英語コグトレ 小学3・4年生』(宮口幸治・正頭英和, 東洋館出版社)	2020. 4
	著書(共著)	『傳達不 NG! 親子溝通無障礙』(台湾版)(宮口幸治・田中繁富, 東販出版)	2020.10

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
宮口 幸治	著書(編者 (編著者))	『社会面のコグトレ 認知ソーシャルトレーニング2 対人マナートレーニング / 段階式問題解決トレーニング編』(宮口幸治編著・石附智奈美・井阪幸恵, 三輪書店)	2020. 6
	著書(編者 (編著者))	『もっとやさしいコグトレ 思考力や社会性の基礎を養う認知機能強化トレーニング』(三輪書店)	2020. 8
	著書(編者 (編著者))	『対人マナーを身につけるためのワークブック——学校では教えてくれない、困っている子どもを支える認知ソーシャルトレーニング』(明石書店)	2020. 9
	著書(分担執筆)	『発達障害白書2021』(日本発達障害連盟)	2020. 9
	著書(分担執筆)	『FUTURE EDUCATION!』(岩波書店)	2020.11
	著書(分担執筆)	『今日の小児治療指針 第17版』(医学書院)	2020.12
	著書 (その他)	(BUNCH COMICS)『ケーキの切れない非行少年たち 1巻』(新潮社)	2020.12
	著書(監修)	『小学1年 コグトレ 計算ドリル: 認知機能 + 計算力トレーニング』(受験研究社)	2021. 2
	著書(監修)	『小学2年 コグトレ 計算ドリル: 認知機能 + 計算力トレーニング』(受験研究社)	2021. 2
	著書(監修)	『小学3年 コグトレ 計算ドリル: 認知機能 + 計算力トレーニング』(受験研究社)	2021. 2
	論文(単著)	「なぜコグトレなのか?」～児童・思春期の社会面、学習面、身体面の認知機能の強化で目指すもの～」(精神科オキュベーションセラピー 37) 1-12頁	2020.10
	研究発表等 (単独)	「私たち小中学校教師が児童生徒に指導すべきこと ～ 子ども達の認知機能を高める必要性について」(浦安市教育講演会)	2020.11
	研究発表等 (単独)	「ケーキの切れない非行少年たち」(第10回 矯正・保護ネットワーク講演会)	2020.11
村田 観弥	研究発表等 (単独)	「ケーキの切れない非行少年たち」(第24回福岡県作業療法学会)	2021. 2
	研究発表等 (共同)	「年長非行少年の処遇の現状と課題」(第61回日本児童青年精神医学会総会)	2020.10
	論文(単著)	「「身体」から考える障害疑似体験の可能性: 学生のアイマスクと車いす体験活動より」(一般社団法人 日本教育学会 日本教育学会大会研究発表要項 79(0))200-201頁	2020. 8
	論文(単著)	「特別支援教育における「思考実験」を用いた遠隔授業ツールの開発」(大阪成蹊大学研究紀要 (7))227-237頁	2021. 2
柳原 恵	研究発表等 (単独)	「身体性から考える障害疑似体験の可能性—アイマスクと車いす体験活動より—」(日本教育学会第79回大会 (web 開催))	2020. 8
	研究発表等 (単独)	「ネットスラングと発達障害グレーゾーン—「メンヘラ」「コミュ障」×「愛着障害」「パーソナリティ障害」—」(日本特殊教育学会第58回大会 (web 開催))	2020. 9
柳原 恵	著書(監修)	港区男女平等参画センター『リーブラ40年史——団体活動からたどる港区男女平等参画センター』(港区男女平等参画センター)	2021. 2
	著書(分担執筆)	「地域女性史における聞き書きの可能性——『地方』とジェンダーの視点から」(総合女性史学会編『ジェンダー分析で学ぶ女性史』岩波書店)	2021. 3
	研究発表等 (単独)	「COVID-19パンデミックにおけるフェミニズム運動の視座と実践の可能性——南米チリを事例として」(ジェンダー史学会第17回年次大会)	2020.12

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
柳原 恵	研究発表等 (単独)	「おなごたちと性暴力——『〈化外〉のフェミニズム』から」(世代間トーク実行委員会・もりおか女性センターシンポジウム：ミニコミから# MeTooへ)	2021. 1
	研究発表等 (単独)	「現代女性運動史の再構築——「地域」と「地方」の視点から」(認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワークミニコミ図書館シンポジウム：地域に生きた女性たちの「フェミニズム」[「全国女性史研究交流のつどい」報告集全12回を読む])	2021. 1
	研究発表等 (単独)	「フェミニズム以前のフェミニストたち——1950-60年代岩手女子青年たちの生活記録誌を読む」(2020年度国際言語文化研究所リレー講座：書いて配って世界を変える——zine・ミニコミ・フェミニズム)	2021. 2
	その他 (単独講演)	「『リーブラ40年史』刊行に寄せて」(男女平等参画フェスタ in リーブラ2020)	2021. 2
吉田 誠	論文(単著)	「日産における1946年の十一月闘争と『危機突破』運動」(『立命館産業社会論集』56巻3号)21-36頁	2020.12
リム ボン	著書(単著)	『研究者への道——学術論文の執筆方法に関する一考察』(晃洋書房)	2020.10
	著書(共編者 (共編著者))	『まちづくり指南書』(日本機関紙出版センター)	2020. 5
	論文(単著)	「学術論文の執筆方法に関する一考察——(その2)指導教員との出会い——」(『立命館産業社会論集』56巻1号)195-207頁	2020. 6

